

一 般 演 題

1. ^{201}Tl が集積した多発性骨髄腫の 1 例

品川 正治 石橋 正敏 大園 洋邦
西村 浩 内田 政史 目野 茂宣
森田誠一郎 早瀬 尚文 (久留米大・放)

今回われわれは、右腸骨に発生した多発性骨髄腫に、 ^{201}Tl が集積した症例を経験したので報告する。症例は、平成 6 年 11 月頃より貧血が出現し、平成 7 年 1 月に近医にて肋骨骨折の加療するも改善認めないため、当大整形外科受診し多発性骨髄腫と診断される。その後、血液内科にて化学療法施行され、経過観察されていたが、右下肢の疼痛が出現し、 ^{201}Tl シンチを施行し、右腸骨の病変部に集積を認めた。多発性骨髄腫への ^{201}Tl の集積は、文献学的にも稀であり報告した。

2. ガリウムシンチが経過観察に有用であった足底部悪性末梢神経鞘腫の 1 例

谷口真由美 長町 茂樹 陣之内正史
中原 浩 Leo G. Flores II
渡邊 克司 (宮崎医大・放)
柏木 輝行 帳沙 悦男 田嶋 直哉
(同・整外)
村山 寿彦 (同・二病理)

症例は 54 歳男性。94 年 6 月 7 日に右足底部皮下腫瘍の切除術を受けた。病理組織診断にて悪性末梢神経鞘腫と診断された。95 年 7 月の Ga シンチでは、異常集積は認められなかった。95 年 10 月、切除部に再度皮下腫瘍を触知、さらに同側の鼠径リンパ節の腫脹も認められた。Ga シンチ上では腫瘍およびリンパ節に一致して高度の集積が認められ、足底部悪性末梢神経鞘腫の再発と診断された。本症例は再発の過程を Ga シンチにて経過観察し得た、稀な足底部悪性末梢神経鞘腫の 1 例であり、定期的な Ga シンチによる follow up が有用と思われた。

また、足底部に Ga の異常集積を認める疾患の鑑別

診断に悪性末梢神経鞘腫も加える必要があると思われた。

3. 原発性肺癌に対する ^{201}Tl -SPECT の検討

平井 篤子 荒川 昭彦 (再春荘病院・放)
清藤 千景 森山 英士 前田 淳子
白川 妙子 福島 一雄 本田 泉
難波 煌治 直江 弘昭 (同・内)
岡部 和利 岡崎 伸治 片瀬 茂
坂本 泰雄 (同・外)
富口 静二 高橋 睦正 (熊本大病院・放)

原発性肺癌 13 症例 15 病変に ^{201}Tl -SPECT を施行した。病変検出率を Blind study と CT 所見を参考とした Non-Blind study との相違および各組織型による Retention Index の相違を検討した。病変検出率は Non-Blind study で Blind study より高く、2 cm 未満 33%、2 cm 以上 3 cm 未満 75%、3 cm 以上 100% であった。Retention Index はばらつきが大きいものの腺癌で平均 40.5、扁平上皮癌で平均 -4.9 と組織型との関連が示唆された。 ^{201}Tl -SPECT は CT に付加する肺癌の補助診断として有用と思われた。

4. 耳下腺腫瘍における $^{99\text{m}}\text{Tc}$ および ^{67}Ga シンチグラフィの有用性の評価

加藤 文雄 石野 洋一 中田 肇
(産業医大・放)

耳下腺腫瘍における $^{99\text{m}}\text{Tc}$ および ^{67}Ga シンチグラフィの有用性を検討した。対象は Warthin 腫瘍 15 例、多形腺腫 19 例、悪性腫瘍 8 例の計 42 例である。Warthin 腫瘍の 80% で、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ シンチにて腫瘍への集積亢進・クエン酸刺激後の排泄遅延が認められ、 ^{67}Ga シンチの集積はみられなかった。多形腺腫の 58% は $^{99\text{m}}\text{Tc}$ シンチで欠損を呈した。 ^{67}Ga シンチの集積は様々であった。悪性腫瘍の 75% は $^{99\text{m}}\text{Tc}$ シンチで欠損を呈し、3 例は正常実質の破壊が著しかった。 ^{67}Ga シンチでは 88% に高集積を認めた。Warthin 腫瘍に関